

2015年度 前期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	電気通信工学科						
科目名	初等回路理論						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年前期		
必修・選択の別	必修科目(組込みシステムコース) / 必修科目(電気エネルギーコース) / 必修科目(情報システムコース)						
担当者	中野 吉正						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電流計や電圧計を目的に即して正しく接続できる。</li> <li>・オームの法則を式で表せる。コンデンサの容量の定義が説明できる。</li> <li>・回路の内線に流れる電流を、独立な閉路電流の組み合わせで書き表せる。</li> <li>・RC閉回路に流れる電流のふるまいが定性的に説明できる。</li> <li>・交流電圧のもとでコンデンサやコイルに流れる電流や電圧の変化を書き示すことができる。</li> <li>・電磁気学で使用される単位を、それぞれm, kg, s, Aの組み合わせで書き直せる。</li> </ul>						
日程と内容	4/ 9 導入・電荷と電流 4/16 電流と電圧・直流と交流 4/23 電位・電力 4/30 オームの法則・抵抗の接続 5/ 7 合成抵抗・演習 5/14 回路方程式の立て方・小試験 5/21 回路方程式の立て方(2) 5/28 回路方程式の立て方(3) 6/ 4 電流則に関する補足・小試験 6/11 電気工学で使う単位 6/18 交流の記述・課題 6/25 コンデンサの放電と交流に対する応答 7/ 2 回路素子の性質・課題 7/ 9 コイルの交流に対する応答・実効値 7/16 総合復習 7/23 定期試験						
成績評価基準	定期試験	60%	実技				
	臨時試験	20%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	20%	計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	授業の目的は講義を通して達成できた。また、個々の学生の理解度は課題と試験によって検証できた。						
反省点	インダクションコイルの交流に対する応答は、分かりやすいようにと毎年のように講義の仕方に工夫を重ねてきたが、学生の反応がいまひとつ心許なかった。説明には電磁気学と回路理論の組み合わせが必要となるので、初年級の受講者にはすこし複雑だったかもしれない。						
来年度の計画	カリキュラム改定により科目廃止(再履修コースのみ別の担当者により開講予定)						
授業評価アンケートに対するコメント	アンケートの回答を見ても、定期試験の成績から判断しても、ほとんどの受講生には比較的易しい講義であったと思われる。しかし、この科目はあくまでも導入的な講義であることを認識し、今後の関連した授業に臨んでほしい。						
履修登録者数	69名	定期試験 受験者数	66名	合格者数	65名	合格率	98%